

令和5年度創立記念のごあいさつ

母校の生徒の皆様、双龍同窓会員の皆様には、ますますご健勝のことと心よりお喜び申し上げます。創立記念日を迎えるにあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

このたび富山県立高岡商業高等学校が創立百二十六年目を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。また、日頃から本会の活動ならびに母校への教育支援にご協力を賜っている関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

母校は、明治30年6月に高岡市源平板屋町の妙国寺に「高岡市立高岡簡易商業学校」として産声をあげ、明治・大正・昭和・平成そして令和の時代を刻んで本年で百二十六年目を迎える伝統と歴史ある学校であります。

商業教育の振興に大きな期待を担い、商業学校として創設された母校は、その後、幾度かの校名変更や移転などを経て、数多くの優れた人材を各分野に輩出し、県内はもちろん、わが国の産業、文化の振興・発展に大きく寄与されているのであります。

このことは、二万四千人を超える私たち双龍同窓生の誇りでもあり、また、励みにもなっております。アフターコロナの今、県内観光地における来県客は、徐々に増加傾向にあり、経済産業活動もこれからが勝負となります。生徒の皆さんには、「地場産業」、「歴史文化遺産」、「豊かな自然」と「新鮮な海の幸」を活かし、今後の新しい高岡の町づくりと、新たな魅力の創造に寄与されることを期待しております。

また現在、世界情勢は日々目まぐるしく変化しております。そして、地球環境問題など地球規模で取り組むべき課題も増えております。

このような状況において、社会で求められるのは、「自ら考え、行動できる人間」です。冷静に情報を分析し、課題を解決する力。豊かな創造性、多元的な価値観を持って、果敢に行動し、成長し続ける力が必要とされています。

生徒の皆さんには高商魂の伝統と誇りをもち日々精進され、先輩・後輩の絆をより一層深め、力強い歩みで社会に貢献されますことを期待しております。

終わりになりますが、本年の創立記念の日を迎えられますことは、誠に喜ばしく思っております。

母校高岡商業高等学校の限りない発展と生徒の皆さん・教職員、そして関係者の方々の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和5年6月7日

双龍同窓会長

荒井 毅